

# 日口友好

Японо-Русская Дружба

第85号 2021年10月21日

日口協会岩手支部

郵便振替 02280-6-118306

電話・FAX 019-623-1636

〒020-0881 盛岡市天神町13-9 大信田方

発行責任者 佐々木 敏男

1986  
チェルノブイリ .....

2011  
福島

## 交流は 原発事故を越えて 未来へ

### リャザン州と岩手の交流に因んで



リャザン州交流団来県  
岩手県庁前にて 1998. 7.

リャザン州はモスクワの南東約一八〇キロにある州ですが、岩手県労連とリャザン州労評との交流が一九七〇年代から始まっていた。そこに一九八六年に起こったチェルノブイリ原発事故は、岩手の日口交流に大きな課題をもたらしました。

一九九〇年頃になってリャザン州からの訪問団が驚くべき情報をもたら

されました。それは「リャザン州からもチェルノブイリへ多くの消防士や兵士、労働者が事故処理に参加した。彼らは今、被ばくで苦しんでいる。被ばく治療医薬品が不足している」という情報でした。

これに心えて、当時の県労連と日口岩手は、「リャザンに医療機器を送ろう」と岩手県民に広く呼びかけました。そのための募金運動は三年にわたって続けられ総額一二〇〇万円を集め医療機器や薬品注射針などを送ることが出来ました。この医療品贈呈運動は岩手からの「少女リャザン訪問団」「リャザン州創立九〇〇年祭・



黒川さんさや訪問団」などに発展し、リャザン州からも交流団が来県し、特に一九九八年には、三人の少女を伴った交流団来県し盛岡市や岩泉の子供たち

とキャンプ交流などを行いました。

**ナターシャ・グジーコンサート**  
2004. 9 2005. 9  
6歳の時、チェルノブイリ原発事故で被ばくした、グジーは、バンドーラを奏でて、故郷ウクライナを歌いました。

## 放射能を大型ドームで密閉し 百年以上の減衰を待つ

二〇一一年福島第一原発事故を体験した日本の私たちは、チェルノブイリ

事故から多くを学ばなければなりません。チェルノブイリ原発事故（裏面に続く）

### 汚染水の海洋放出は無責任の極み

日口協会岩手支部 会長 佐々木敏男

会員におかれましては、日頃のご理解とご協力に感謝申し上げます。さて、福島第一原発の「ALPS処理水」を海洋放出する問題は、三陸の漁業者にとってまさに「死活問題」です。政府は、「海水で薄めれば大丈夫」とうそを言いますが、「無責任の極み」と言わざるを得ません。先日就任した新総理は「自分の特技は、人の話をよく聞くこと」と言っていますが、三陸の漁業者の声を聞くのなら、海洋放出の方針を直ちに撤回すべきです。

## 現在のチェルノブイリ原発



当初の「象の足」⇒ コンクリートで再補強

では約十日間に渡って原子炉からの放射性物質の放出が続きました。放出された核物質は約三〜四％で、大半は原子炉内に残り、崩壊熱により溶融し原子炉から流れ出し、塊(デブリ)となりました。その表面は黴だらけなので「象の足」と呼ばれ、この灼熱の固まりを人々は総力を挙げて砂やコンクリート等で固めて封じこめました。

しかしその後「象の足」は風雨にされされひび割れし倒壊しそうになりました。ウクライナ政府は国際的協力もありコンクリートで再補強し、さらにアルミ製の巨大なドームで覆いました。これにより放射能が外部に漏れ出す恐れは少なくなりました。チェルノブイリ事故原発は、無理にデブリを取り出すのではなく、核物質が放射線を出しながら、充分減衰してから、廃止の作業を行う方針です。それはおそらく百年後かも知れず二百年後かも知れません。

# 炉心デブリ零化で

# 安定の可能性

## 市民科学者が提唱

福島原発事故では汚染水でタンク群が増大。

福島第一原発事故では原発敷地内に流れ込む地下水の処理に迫られました。

現地では工場も周辺の土地も森林も放射能に汚染され、汚染水の海への流出による魚類や海藻、海洋生物への放射能取り込まれが心配され、食べ物の安全が大きな課題となりました。

東電は、地下水阻止の「地中凍土壁」を構築したり、工場の水脈上流側に掘り抜き井戸(ドレーン)を設置し、汚染されない地下水の迂回路を構築したりしました。放射能汚染水を「ALPS」という放射性物質除去装置によって、放射性核種を取り除き「処理水」として敷地内のタンクに大量に保管しています。

福島原発事故では

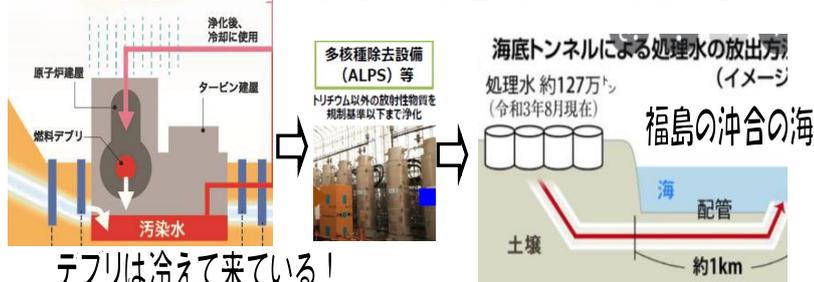
汚染水でタンク群が増大。

福島第一原発事故では原発敷地内に流れ込む地下水の処理に迫られました。

現地では工場も周辺の土地も森林も放射能に汚染され、汚染水の海への流出による魚類や海藻、海洋生物への放射能取り込まれが心配され、食べ物の安全が大きな課題となりました。

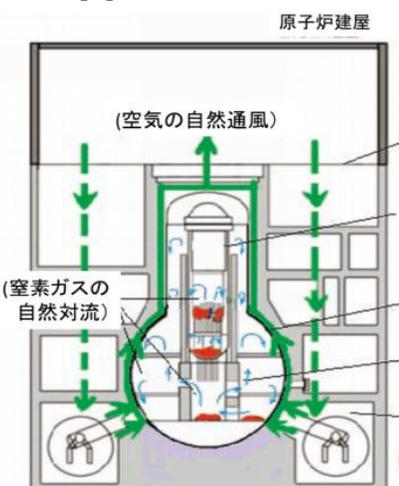
東電は、地下水阻止の「地中凍土壁」を構築したり、工場の水脈上流側に掘り抜き井戸(ドレーン)を設置し、汚染されない地下水の迂回路を構築したりしました。放射能汚染水を「ALPS」という放射性物質除去装置によって、放射性核種を取り除き「処理水」として敷地内のタンクに大量に保管しています。

## 現在の福島原発事故現場



デブリは冷えて来ている!

そして政府は、「トリチウムという放射性物質だけは除去できないが、水で



薄めて海へ放出したい」という計画を発表しました。

当然漁業関係者や消費者などが巻き起こりました。

デブリの温度が下がった

ここで考えるべきは福島原発事故汚染水は、「圧力容器内デブリの冷却水でもある」ということです。

緊急停止した炉心の核燃料は崩壊熱で高温でした。

これを冷却しなければますます高温となり危険なので冷却しなければなりません。そこで流入地下水をこのデブリに掛けて冷却し続けました。デブリにふれた地下水は多量の核種を含み危険です。

この件について、ネットのUチューブ動画「デモク

ラシータイムス」が市民技

術者三人のレポート番組を放映しています。

「チェルノブイリに学ぶ

「密閉安定化」が出来る

三人の原発技術者は「福島事故のデブリの温度は二〇一二年に比して一〇分の一くらいになり、かなり下がった。空冷による密閉管理が出来る段階に入ってきた」と語っています。デブリを充分冷にすれば、発生する汚染水は激減します。デブリを無理に取り出さず、チェルノブイリのように「原子炉ごと封じ込め放射能の減衰を待つ」という一〇〇年計画方式です。右の図のUチューブUR「原発耕論」をごらんください。(尚)

映像(原発耕論)

原子力市民委員会

(ccne.japan.com)

第9回 「福島第一原発の汚染水は海に流すな」

第16回 「福島第一原発のデブリの取り出しを断念せよ」

九月二一日の国際平和デーに、高校生が平和の書を護国神社に揮毫した、とのテレビニュースが流れた。新聞は、全国規模の催しで、四九の護国神社と靖国神社で、四三の高校が参加したと伝えていた。主催者は、ネットによると一月二一日建国記念の日に、「和の国日本建国記念奉祝揮毫」を各地で行っていると出ている。

一ヶ月後の一〇月二一日は総評が世界に呼びかけて始まった、「国際反戦デー」。

三一日は衆議院議員選挙の投票日です。次の世代を担う人たち、一八歳の若者たちも投票します。この機会に自分の子供達、孫たちと平和や世の中のことをチョッと話をしてみては如何でしょうか。(雅)

